

地域資源の活用等持続可能な農業への転換に向けた県の取組状況

富士山麓の畜産堆肥の地域内流通の推進(富士宮市ほか)

- 家畜排泄物の処理(畜産農家)と肥料価格の高騰(茶農家)の双方の課題の解決を目的
- 協議会を設立し茶園での利用に向けた地域内流通システム構築に向けた実証試験を実施中(R4-6)



【課題】

- 堆肥のストック場所
- 散布コストの低減
- 農家同士のマッチング方法
- 散布しやすいペレット化への対応など

耕蜂連携の取組推進(吉田町ほか)



- レンゲは緑肥(窒素固定)としての効果あり
- 肥料価格の高騰(耕種農家)、レンゲ畑の減少(養蜂業者)の双方の課題解決を目的
- 両者のマッチングや肥量削減効果の調査を実施中



【取組状況】

- 現在6事例、8.9haで取組
- 肥料費は3～4割程度削減可能
- ドローンによるレンゲの播種など省力化にも取組

レタスの施肥低減技術の実証(志太榛原地域)

- レタス産地のJAハイナと連携し生育が旺盛(施肥量が削減可能)な品種の栽培試験を実施
- R4年度に行った施肥量を15%減肥した試験では、慣行栽培と比べて階級、葉色、玉揃いに差がなく、R5も継続実証



稲発酵粗飼料・飼料用米・稲わらの活用推進(中遠地域ほか)

- 水田地帯の中遠地域では主食用米の生産調整の取組として、稲発酵粗飼料や飼料用米の生産が拡大中
- 安定的な供給量・単価が見込めるため、飼料高騰対策として、域内流通の仕組みづくりを推進中

